



雲青き

さいたま市立大成中学校 学校だより

10月号 令和7年9月26日

合唱コンクールにむけて

校長 福田博志

今年の夏は、本当に暑い日が続きましたが、朝晩は心地よい涼しさが、やっと感じられるようになりました。この季節は、穀物や果物の収穫の季節であり、「実りの秋」とも言われています。学校も同様に、授業や部活動、学校行事などの様々な活動を通して学んできたことが実を結ぶ季節でもあります。この時期に行う大成中の代表的な行事の一つが「合唱コンクール」です。

クラス全員で、思い出に残る最高の合唱に仕上げてもらいたいと願っています。とは言うものの、私がクラス担任をしていた時は、うまくいかず、「合唱は、なかなか難しいなあ」と思った経験が多々ありました。

合唱は一人で歌うのではなく、クラス全員でつくり上げるものです。各自が自分の役割を果たし、仲間と協調して、合唱曲の魅力を最大限引き出すことで感動的な合唱になることは、誰もが理解していると思いますが、実践するとなると、容易なことではなく、多くの「障壁」が出現してきます。

私が、担任をしていた時に合唱練習でよく見られた「障壁」を紹介します。また、これらの「障壁」をクリアできれば、きっと、素晴らしい合唱ができたらうなあと思っております。

一つ目。自分の役割を果たすということは、「自分のパートを覚える」ことです。まず、これが一つの障壁でしょう。パートを完璧に覚えることができれば、自信をもって歌うことができるのです。

次に仲間と協調するところに障壁が出現しやすいです。合唱は各パートのバランスが大切です。早い話がクラスの仲が良く、思いやりがあるとハーモニーがいい感じに仕上がってくるでしょう。

「曲の魅力を引き出す」というのは、その曲の持っている魅力を最大限に表現することで、そのためには曲の魅力を見つけてイメージを膨らませることです。

また、合唱練習の際には気持ちを切り替えることが鉄則です。授業や部活動のことや個人的な用事があるかもしれませんが、気持ちを切り替え、練習は集中して楽しみながら取り組めれば最高です。「やらされて」練習に付き合っているようでは人に聞かせる合唱はできないでしょう。そして何よりも、合唱をクラスみんなで心から楽しもうとする姿勢があればこそ、「障壁」を乗り越えることができるでしょう。

限られた時間の中で互いに協力し自分たちが納得する合唱を創り上げてほしいと願っています。

最後に、とある合唱の達人といわれている先生のアドバイスです。

「歌いだしは合唱の命、合唱曲の山を最大限にアピールし、終わりは印象的に」

